

# 博物館だより

No.176



令和3年7月1日

みやこ町歴史民俗博物館発行  
福岡県京都郡みやこ町豊津1122-13  
TEL 0930-33-4666  
FAX 0930-33-4667

## ◆博物館NEWS

### 「文化のみやこづくり」記念プロジェクト

## わたしの町の過去・現在・未来絵画コンクール 小学生歴史たんけん作文コンクール

### 作品募集!

博物館では京築地区に在住・通学する小中学生を対象に、ふるさとの歴史と文化ゆかりの絵画・作文作品を募集するコンクールを開催します。

これから迎える夏休みを利用して、自分の家族や地域・日本の歴史や文化にまつわる「みどころ」や「お気に入り」を、絵や文章で表現し合おう!というコンクールです。

募集作品のテーマや応募要領は次の通りです。皆さん奮って自慢の作品をお寄せ下さい!

▼作文コンクール最優秀賞朗読(令和元年度)  
例年50作品程度の応募がある作文コンクール歴史にまつわるさまざまなものがたりを自分の思いでつづってみよう!



▶絵画コンクールグランプリ作品(令和元年度)  
千点を越える応募がある絵画コンクール。身の回りにある「お気に入り」のふろしと通産を描き出そう!



### ★わたしの町の過去・現在・未来 絵画コンクール(3部門)

三つの部門からお気に入りのテーマを選び、わたしの町の「過去・現在・未来」の姿について、あなたが「いいねー」と思っているお気に入りの文化遺産や眺め・想像を描いて下さい。

### ★歴史たんけん作文コンクール

皆さんが住む町や地域の歴史、おじいちゃん・おばあちゃんに聞いた昔の話、歴史の本を読んだ感想、旅行先で調べた史跡や先人のことなど「歴史」に関することでも思わず「アツくなった」ことを文章にしてください。

### ◆応募要領(概要のみ)

- ・メ 切: 9月17日(金)
- ・応募方法: 博物館へ郵送か持参
- ・その他: 入賞者へ賞品贈呈
- ・ご紹介以外の詳しい応募要領については博物館☎33-4666へお問合せ下さい。

なお、コンクールは新型コロナウイルスの感染拡大に伴う情勢変化があった場合、中止を含めて内容変更する場合がありますのでご承知おき下さい。

## ◆講座教室 催し物ガイド 7月の歴史講座

- 【漢詩紀行講座】  
7月3日(土) 9時30分〜
  - 【古典かな講座】  
7月17日(土) 9時30分〜
  - 【みやこ学講座】  
7月23日(金・祝) 10時〜
  - 【古文書講座】  
7月31日(土) 10時〜
- ※日程等変更となる場合があります。  
※見学入会等は別途ご案内します。

## 夏休み子ども体験教室 「土器を作ろう!」のご案内

博物館では「夏休みのモノづくりにチャレンジ!」をコンセプトに、以下の要領で体験教室を開催します。ふるつてご参加ください!

課題制作にいかが? お申込みお待ちしております!!



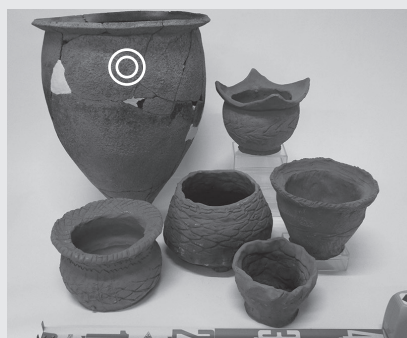
- ・日時: 8月8日(日・祝)
- ※受付9時〜/体験9時30分〜
- ※全行程2時間ほどの見込み
- ・場所: 博物館研修室
- ・参加費: 300円
- ・対象者: みやこ町内の小学生
- ・募集人数: 先着15名まで
- ・申込方法: 7月10日(土) から電話または博物館窓口で申込み
- ・注意事項
- ※1〜3年生は保護者の同伴が必要
- ※作品は焼上げ後、8月28・29・31日の開館時間帯にお引渡しします。
- ※新型コロナウイルスの感染拡大に伴う情勢変化があった場合、中止を含めて内容変更する場合があります。

## 文化遺産ボランティア(豊み隊)活動内容

- 7月から実稼働に入り、ワーク編の実践(永沼家住宅周辺除草作業)を以下の要領で行います。調整可能な方は、ふるつてご参加下さい。
- ・日時: 7月25日(日)
- ・場所: 永沼家住宅(犀川帆柱)
- ・備考①現地集合・解散です。
- ②荒天時中止(前夜までに電話等で連絡します)。
- ③会員外の方は登録が必要です。



▲体験教室での土器づくりの様子(過去の開催記録から)



▲教室で制作予定の土器(イメージ/ただし◎は本物の土器)

# みやこの歴史発見伝 139

## 令和とその時代 17

―豊前国分寺三重塔を科学する②―

### 「塔」の起源

豊前国分寺三重塔のような日本の木造塔の起源は約2300年前にインドで作られた仏塔「ストゥーパ」とみられています。この仏塔は仏陀（お釈迦様）の遺骨（仏舍利）を納めて信仰の対象とした塔（仏舍利塔）で、「お釈迦様のお墓」という見方もできます。

「ストゥーパ」は、その後、漢字で「卒塔婆」と表記され、現在、墓地でみられる木札の名称となっています。仏教では、一般的に「佛像」が信仰の対象になっていますが、当時は仏塔に参拝することがその信仰の証とされ、仏塔は寺院の中心となる施設に位置付けられました。その後、仏塔は中国で層塔形に変化し、日本独自の思想と融合して三重塔のような美しい木造塔の形が完成したとみられています。塔体の形状は大きく変化しましたが、塔の相輪の部分（前号掲載図参照）がインドで出現したストゥーパ本来の要素を継承していることが確認できます。三重塔も「仏舍利塔」として建てられ、宗教的にはストゥーパそのものである相輪が最も重要な意味を持ち

ます。またこれを天高く支持しているのが心柱で、その心柱の土台となる礎石（心礎）には、仏舍利が納められました。この心礎（仏舍利）と相輪（ストゥーパ）をつなぐ心柱は日本古来の巨木信仰と併せて建築的、宗教的な側面でも非常に重要な役割を担うものです。このような塔の礎石と仏舍利の関係が確認できる大変希少な事例が豊前国分寺跡付近の水田の中から発見されました。

### 幻の寺「上坂廃寺」

みやこの町の上坂区には、古くから豊前国分寺の前身寺、若しくはその経蔵跡とみられる古代寺院の所在が伝えられてきました。昭和58年（1983）1月に圃場整備事業に伴って実施された調査では長さ2.8m、幅2.2mを測る花崗岩製の巨大な塔の心礎が検出されました。この上面中央には直径85cm、深さ22cmの円形の心柱穴が削り貫かれ、その底面にはさらに直径約18cm、深さ約11cmを測る円形の舍利孔（仏舍利を納める穴）が設けられていました。心礎の規模や心柱の直径が85cm前後に推定される事等から巨大な塔の存在が想定され、また三重塔では観察できない本来の心柱と心礎の関係を知らなくても重要な発見となりました。このように舍利孔を設けた礎石は九



上坂廃寺塔心礎  
(埋土保存により現在は見ることはできません)

州でも上坂廃寺と塔原廃寺（筑紫野市）のみという大変貴重な事例であることから現在、県の文化財に指定されています。また調査で出土した瓦の文様から国分寺より50年ほど前に建設された別の寺院であったことが確認されています。

### 金より高価な「ガラス」？

上坂廃寺の舍利孔から仏舍利は発見されませんでした。国内にみられる飛鳥・奈良時代の寺院の心礎350例のうち、舍利孔が設けられているものは上坂廃寺を含め80例に止まり、さらに仏舍利を納めた容器が確認できたのは、わずか6寺院に限られます。仏舍利を納める容器は、いずれも当時の工芸技術の粋を尽くしたものであり、「入れ子状」に収納される傾向がみられます。直接仏舍利を納める一番内側の容器はガラス製の瓶で、仏舍利を納めた後、金、銀、銅製の箱の順に収納する事例がみられ

ます。このように嚴重かつ豪華な四重の入れ子状容器によって保護される理由は、お釈迦様の遺骨である仏舍利に対する敬重の念を示すもので、茶毘に付される前のお釈迦様の棺が金、銀、銅、鉄製の四重棺であったことに由来するといふ説も非常に興味深いものです。寺や地域により様々な埋納方法がみられますが、直接仏舍利を入れる容器の多くはガラス製で、これを取りまく外護容器には金を用いられる傾向がみられ、朝鮮半島でも同様の事例が確認できます。このような事例から奈良時代は、ガラスが金よりも上位に位置したことが伺え、発掘調査結果でもそれを裏付けることができます。

オリンピックのメダルは銅、銀、金の順にランクアップしますが、仏舍利の容器も同様の傾向をみることができ、当時はその最上位に



現在の豊前国分寺三重塔の心礎と心柱

ガラスが位置したことが伺えます。「ガラス瓶」が「金」よりも高価であった時代を想像することはできませんが、時代によるモノの価値の変遷を知る上でも非常に興味深い資料といえます。

### 日常生活の中にみられる「舍利」

昭和62年（1987）豊前国分寺三重塔は91年ぶりに大規模な解体・修復工事が行われ、併せて礎石の調査も実施されました。調査の結果、仏舍利は発見されませんでした。心柱を支える礎石の周辺から「生」「阿」など経文の字を一つの石に一字づつ墨で記した「二字一石経」の小石約30個が出土しました。出土状況等からこれらの小石は、仏舍利の代用として埋納されたものとみられ、改めてこの塔が「仏舍利塔」として建設されたことが確認できました。

握り寿司の酢飯や炊き立ての米飯を「シャリ・銀シャリ」と呼びますが、その由来については米を意味するサンスクリット語（シャリ）を語源とするものや、形状が仏舍利に酷似している等の説がみられます。普段何気なく使われる言葉ですが、米が2000年以上も生命を支える食の根幹を占めてきた日本人にとって、その一粒一粒に、最も尊いお釈迦様の姿を見事に反映させた美しい言葉として現在まで受け継がれています。

（井上信隆）